

支援部ネット

令和5年度 特別号①
すながわ高等支援学校
研究支援部

初めに

この支援部ネットでは、支援教育に関する情報や校内での取り組みなどをお伝えしていきます。今回は、3年生で取り組んだ部落問題に関する人権学習についてご紹介します。ぜひ一読ください。

うわさや言い伝えの中には…

人権学習の第1回めは、うわさや言い伝えの中にある「偏見」について考えました。「大阪の人は言葉が乱暴で、ガラが悪い」「A型の人はいくつも顔で、O型の人はおおざっぱだ」。このような言い方を聞いたことがありますか、と問いかけると、ほとんどの生徒が「ある」と答えました。このような根拠のないイメージやうわさ・偏った判断をする見方が、「偏見」です。この「偏見」に、好き嫌いの感情や優劣の考えが付き、それが行動に移ると「差別」につながることがあります。偏見から差別が生まれる仕組みを学び、差別を生まないためにはどうすればよいのかを考えました。

●生徒の感想より ～偏見や差別を広げないために、自分にできること～

- 勝手な思い込みをしない。
- 聞いた偏見で、ものごとを決めつけない。
- 確認してから信じる。
- 一度立ち止まって、本当にそうなのか考える。
- 相手の気持ちを理解する。
- うわさを広めない。

「ちがいのちがい」

人権学習の第2回めは、「ちがいのちがい」について考えました。「日本人のAさんは簡単にアパートを借りられるが、外国人のBさんはなかなか借りることができない」「ある学校では、宿泊学習のときに、男子が荷物運びをし、女子が夕食づくりをすると決めている」。このような「ちがい」を、あってもよいものとあってはいけないものに振り分けます。難しいものもありましたが、お互いの考えを交流しながら、みんなで考えました。この学習を通して、文化や個性の多様性からくるちがいと、自分の意志ではどうしようもできない差別につながるちがいがあることに気付くことができました。また、自分の中にある「固定観念」に気付いた生徒もいました。



●生徒の感想より

- 偏見は、差別やいじめにつながってくるので、しないように意識しようと思いました。
- 生活している中で、「～やから」という固定観念があるので、気を付けようと思いました。言葉ひとつで傷つく人がいるんだ、と改めて気付きました。
- 人にはちがいがあって、そのちがいを尊重し合いたいなと思いました。

「部落差別」とは

人権学習の第3回めは、「部落差別」について学習しました。前時の「ちがいのちがいにあった「ある会社では、A町出身のBさんは採用するが、C町出身のDさんは採用しない」ということが、かつて実際にあったということを切り口に、住んでいるところ・生まれ育ったところによって差別されること、それが「部落差別」である、ということを知りました。

また、各班を村に見立てた「すながわ郷物語」を演じることによって、どのように差別意識が生まれてきたかを体験的に学ぶことができました。お代官様からのお達しによって一部の村に様々な制限がなされ、その村に対する差別意識が長い年月をかけてできあがり、今でも偏見だけが残っている、という差別の仕組みに気付くことができました。



人の気持ちにつながろう

人権学習の最後には、部落解放同盟向野支部 青年部事務局長 靱山 彩さまをお招きし、「部落問題とわたし」をテーマにお話いただきました。身近にあった結婚差別やご自身がアウティングされた体験について、また、カミングアウトして良かったこと・良くなかったことについて、ご自身の思いを丁寧に語りかけてくださいました。お話に出てくる方々の気持ちを想像しながら、みんなしっかりと聞いていました。

「自分は差別なんかしない、ということは絶対にない。はじめは自分も差別してしまうかもしれないと認めること」という靱山さまの言葉は、生徒・教員関係なく、その場にいた全ての人の胸に刺さりました。常に自身の言動を振り返りながら、人権について学び続けること・考え続けることの大切さに気付かされました。



●生徒の感想より

- 差別は良くないと思っても、いつかはしてしまったり、気付いていないときにしてしまったりするんだと思いました。だから、今でも差別が無くならないんだと思いました。差別を繰り返さないように、日々自分も気を付けようと思います。
- 靱山さんの話の中にあつた自分も差別する側になるかもしれないということと、*アライになるという話を忘らずにこれから過ごしていこうと思いました。（*アライ…当事者を理解し、寄り添う人）
- 私は、今までのことを振り返って、何回か人に差別をしてしまったことがあるので、今回の話を聞いて、自分の発言が差別になっていないかを考えて話したいと思います。誰かに相談をされたときには、話をしっかり聞いて、その聞いたことを一緒に考えたりするようにしたいと思いました。今いる悩みを言える友だちは、大切にします。

社会に出るみなさんに

卒業して広い社会に出たとき、いつか差別と出会うことがあるかもしれません。そのときは、3年間の人権学習で得た知識と人権感覚と判断力に、少しの勇気をプラスして、「それはおかしい。間違っている」と指摘できる人であってほしいと思います。あなたと、あなたの周りの人、そしてすべての人が幸せに生きられる社会を、ともにつくっていきましょう。